

第16巻 編集後記

この度、『言語文化教育研究』第16巻を無事お届けすることができました。

本巻の特集は「ナラティブの可能性」です。特集号の企画趣旨にも書かれています。社会学、心理学、教育学、応用言語学など様々な領域における「経験の語り」に着目した社会的実践、教育的実践を学会誌上で交差させる試みとなっています。読者のみなさまにとって、広くことばと文化の教育としてナラティブが持つ意味を再認識するきっかけとなりましたら、幸いです。

本巻にはこれまでに最も多い、計31本の投稿があり、うち14本が採択となりました。また、5本が次巻へ持ち越しとなり次への掲載をめざして継続的に執筆者と編集委員・査読協力者の間で行われています。

学会も5年目を迎え、会員数も433名(2018年12月15日現在)となりました。「これまでに最も多い」という投稿数ではあったものの、掲載された論文を見てもうかがえるように、多様なジャンル、また学際的な論文を目にすることができます。しかし、そのどれもが、「言語文化教育」につながるものを内包しています。「日本語教育」という分野からスタートした本学会でしたが、「日本語教育」という枠を越え、広く「ことばと文化の教育」をさまざまな分野が越境しながら交差し、新しいものを築き上げていく「アゴラ」——多様な人間の集まる公共的言論空間——を着実に進めていければと思います。それが、読者の皆様それぞれの明日の実践を切り拓くものになることを、願っています。

学会誌編集委員会 委員長 南浦涼介

学会誌編集委員会

飯野令子 市嶋典子 尾辻恵美 米本和弘 北出慶子（特集担当）
小口悠紀子 佐藤慎司 嶋ちはる 嶋津百代（特集担当）
仲潔 中山亜紀子 寅丸真澄 三代純平（副委員長, 特集担当）
本林響子 山川智子 柳田直美 劉志偉 南浦涼介（委員長）
ロマン・バシユカ

査読協力者（本巻担当）

有田佳代子 犬飼康弘 牛窪隆太 岡本成子 久保田竜子
熊谷由理 ケード・ブッシュネル 古賀和恵 小西円 此枝恵子
近藤有美 佐藤貴仁 佐藤正則 佐野香織 澤邊裕子
瀬尾匡輝 瀬尾悠希子 武一美 田中里奈 俵山雄司
徳永あかね 中井好男 永井涼子 中川正臣 中根育子
中俣尚己 中山英治 名嶋義直 福島青史 福永由佳
本田弘之 松本明香 宮永愛子 家根橋伸子 山本冴里
山元淑乃 義永美央子 (敬称略)

言語文化教育研究 第16巻

発行日 2018年12月31日

編集・発行 言語文化教育研究会

事務局：〒187-8505 東京都小平市小川町1-736 武蔵野美術大学

鷹の台キャンパス三代純平研究室内

E-Mail：contact@alce.jp

DTP：ケイ商店

ISSN:2188-9600

Copyright © 2018 by Association for Language and Cultural Education